

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 中井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

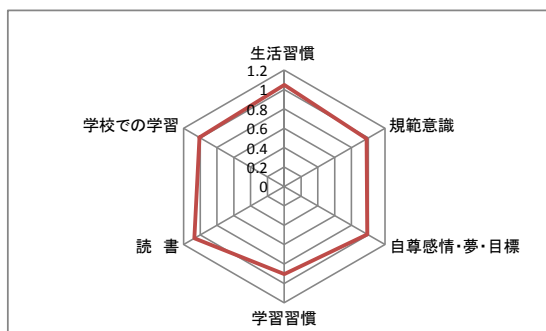
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。漢字の読み書きはできているが、ローマ字の定着ができていない。 ・話す・聞く領域に課題があるので、日頃の学習から話す・聞くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	漢字の読み書きや目的に応じて、図と表とを関係付けて読む問題の正答率が全国と比べて高い。	
	努力が必要な問題	ローマ字を書く問題や目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う問題の正答率が低い	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・目的に応じて本を選び、効果的な読み方を工夫することができている。 ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問したいことを整理することに課題がある。	全国平均正答率との比較 <b>同程度である</b>
	よくできた問題	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら、自分の考えを明確にして読む問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	目的に応じて、質問したいことを整理したり、話の展開に沿って質問する問題の正答率が低い。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、昨年度より上昇し差も縮まった。 ・割合や百分率など、基準量と比較量の関係理解することに課題がある。繰り返し問題を解いて、問題に慣れ親しむ必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	繰り下がりのある減法の計算や、除法の確かめ方法を理解する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	除数が1より小さいときの商の大きさ、割合を百分率で表す時の基準量と比較量の関係の正答率が低い。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができたものの、「活用」に関する問題になると、無解答率が高くなっている。特に、数学的な考え方で意味を記述する問題の無解答率が高い。日頃の学習から、自分の考え方をノートに記述して説明するなど、積み重ねが大切である。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	正方形の、縦と横の長さを変えた時の面積を求める問題は、無解答がなく正答率も高かった。	
	努力が必要な問題	角の大きさを基に、式の意味を説明する問題の無解答率が高く、正答率も一番低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
全体的に全国の結果と同等だが、家庭における学習習慣が下回っている。特に「自分で計画を立てて勉強をしている」の項目が低い。原因として①勉強の仕方が分からない②もっと調べたい・勉強したいとの意欲の高まりがないことが考えられる。 そこで、どのように宿題や自主学習に取り組めばよいのか、具体的なモデルを示したり、家庭学習してきたことを紹介したりするなどの工夫が必要である。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

算数科について計算の基礎基本の徹底が必要。全校では、朝の「学習タイム」や給食準備中の「算数道場」で、繰り返し計算問題をやる。宿題の内容を学年で見直し、100%の提出を目指す。また、一時間一時間の授業で練習問題までを確実にやり、学習内容の徹底を行っていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的な生活習慣は身に付いている。しかし、1日当たりの通話やメール・インターネットを3時間以上する児童が全国平均よりも多い結果になっている。携帯・スマホ・ネットの正しい使い方の指導を行うと共に、保護者会等でもメディアの危険性について伝えていく。